

市場の要求掘り下げを

ものづくりの課題議論

体で覚えた技術財産

モノ・人作りフォーラム

ものづくりによる沖縄の活性化を考える「モノ作り・人作り 地域フォーラム in 沖縄」(主催・中小企業基盤整備機構、沖縄タイムス社など)が6日、浦添市の国立劇場おきなわ小劇場で開かれた。独自の発想で、ものづくりに取り組む県内企業の代表や支援団体、学生らによるパネルディスカッションを通して、ものづくりの魅力や課題、人材育成の在り方について意見を交わした。(23日付朝刊に特集)



県内におけるものづくりの可能性について、新城博氏(トリム社長)は「本土で外貨を稼ぐために、市場で何か求められているかを掘り下げてほしい。やる気と考え方、自分を律することができれば、全国で通用するものが作れる」と強調した。國吉和男氏(県工業連合会常務理事)は「沖縄に合ったものづくりを進めることで、全国でも競争できる。今後は情報技術を生かし、生産体制を

ものづくりの魅力や人材育成の在り方などで意見が交わされたパネルディスカッション。6日、浦添市・国立劇場おきなわ

高度化していく必要がある」と指摘した。

人材育成について、津

嘉山貞雄氏(日進社長)

は「ものづくりの現場で

は、言葉では教えられない

いこともある。体で覚え

た技術は財産になる」と

説明。「先輩やリーダー

が一生涯やっていく姿を見せることが後輩の力になる」と話した。

村松清隆氏(中小企業

基盤整備機構沖縄事務所

長)は「沖縄の若者は公

務員志向が強いが、開業

率は全国で最も高く、ベ

ンチャースピリットが内

在していると思う。自分

たちの技術で会社を興す

ようになってほしい」と

呼び掛けた。

また、大城守さん(沖

縄工業高等専門学校生物

資源工学科4年)、徳盛

一世さん(琉球大学機械

システム工学科3年)、

石川竜矢さん(沖縄国際

大学産業情報学科3

年)、入社7年目の吉田

圭吾さん(和光建設工

業)が、ものづくりや中

小企業に対する印象など

について語った。

宮川泰夫氏(元NHK

アナウンサー)が進行を

務めた。

そのほか、昨年11月

の高専ロボットコンテスト

全国大会で特別賞を受賞

した沖縄工業高等専門学

校の学生らがロボット実

演を披露した。